

西の木と書く栗の話

「週末寸言」原稿 070310

細道「芭蕉と曾良の一行が奥の
 友人等「躬を訪ねたのは元禄2
 年陰暦4月2日。等躬宅は
 ちよ「うど田植の真つ。最中、猫
 の手も借りた。いほどに多忙だ
 つた。もしかりし、代客は違
 て。到着する以上、前の便り大
 近々「訪ねて来る。あうのと
 は「分かつて来る。あうのと
 の「たまたまがいつかになるか
 は「どうも本當に到着するもの
 か「ら、待たせたい。予定ど
 立「て、最忙しい。田植とぶっ
 つ「か、でも、この日は早稲
 そ「れ、催し、この三日は早稲
 を「開催し、その時の発句が有
 と「い、う。その時の発句が有
 な「、風流のはじめや奥の田植
 で「あつた。はじめや奥の田植
 も「芭蕉の相手など、3日は等
 は「な、かたは、捨人、可伸とい
 者「を、紹介して、遠客に
 一「日を、つた。その時の話が「細
 道「も、らつた。その時の話が「細
 い「る。には、次のように記され
 の「木陰を、傍に、大きな栗
 ふ「僧有。椽のふ、太山も、か
 や「と、間に、其詞、れ、て、も、の、に、書
 付「侍る。其詞、れ、て、も、の、に、書

栗「世の「見付ぬ花や軒の
 木「を「給ふと杖に「も柱にも
 基「を「用ひ、浄土に「便あり、
 栗「の「つ、可伸の「大、う、な
 栗「の「つ、可伸の「大、う、な
 捨「蕉は「この「時、シ、う、を
 感「じて、人に「たい、く、シ、の、木
 に「あ、ひ、たい、く、シ、の、木
 とい「う、も、い、は、美、し、く、な、
 ン「に、多、少、の、血、は、可、伸、が、
 て「は、な、い、い、木、を、可、伸、が、
 の「魅、力、な、い、い、木、を、可、伸、が、
 書「か、ら、違、い、な、い、と、芭、蕉、は、
 獨「り、合、点、に、違、い、な、い、と、芭、蕉、は、
 と「し、法、外、な、評、価、を、受、け、た、可、伸、
 物「に、な、つ、て、し、ま、つ、た、の、で、あ、る、
 正「直「者「の「可「伸「は「伊「達「衣「等
 躬「編「者「に「軒「の「栗「は「更「に「行「基
 の「よ「予「が「軒「の「栗「は「更「に「行「基
 と「り「す「が「み「成「し「唯「實「を
 夏「か「芭「蕉「の「み「成「し「唯「實「を
 折「々「愛「ら「一「句「を「残「し「く「行「脚「の
 人「々「愛「ら「一「句「を「残「し「く「行「脚「の
 梅「が「香「を「事「成「し「く「行「脚「の
 栗「可「伸「は「須「賀「朝「借「す「可「伸「軒
 ど「可「伸「は「須「賀「朝「借「す「可「伸「軒
 実「以「外「に「梅「の「香「の「助「け「い
 も「借「り「な「ら「ず「の「梅「の「香「の「助「け「い
 の「庭「に「木「は「ば「相「応「し「く「ら「な「い
 の「庭「に「木「は「ば「相「応「し「く「ら「な「い
 の「日「の「庭「に「木「は「ば「相「応「し「く「ら「な「い
 の「日「の「庭「に「木「は「ば「相「応「し「く「ら「な「い